

「環境や社会を救う食の選択」

—如何にして食の倫理的消費を促すか—

消費者が倫理観や地域の農家への支援意識をもって、正しい食の選択を行えば、地域農家・農村が守られ、私達の生活環境としての自然・社会環境が救われます。

その理由と、如何にすれば環境や社会を救える食の選択を促せるのかについて、鹿児島大学農学部が調査研究した成果の報告です。聞いてみませんか？

I	・倫理的食品・倫理的消費の存在 1. 定義/2. 鹿児島市内でみつけた倫理的製品/3. 倫理的消費の捉え方
II	・食の倫理的消費への社会的要請 1. 食の生産・流通システムに潜む問題/2. 公共財と食料生産/3. 消費者による公共財の非政府的供給
III	・倫理的食品の消費にみる日本人消費者の意識と特徴 1. 日本vs欧米/2. 製品購買vsプロセス購買/3. 利己的消費に潜む問題
IV	・倫理的食品に対する認知と被検者の選択にみる反応・ニーズの確認 1. 実施の経過と実験の設計/2. 倫理的消費に値する製品マークに対する認知および選好/3. コメの製品ラベルの選択にみる選好/4. 有機野菜のアピールの選択にみる選好と信頼度/5. 回答後における被検者の感想・今後の学習意欲・購買意志/6. 選択実験分析の総括
V	・如何にして倫理的消費を促すか 1. 情報と認知/2. 農業・環境・くらしの関係の理解/3. 消費者ベネフィットの可視化/4. 環境ファクターのアピール・コミュニケーションの強化/5. 信頼の保証とクロスコンプライアンス/6. 効果的マーケティング戦略
VI	・終わりに 私達からのメッセージ・ミッションを終えた感想

と き 平成 26 年 8 月 6 日 (水) 15:00~17:00

ところ 鹿児島大学農学部共通教育棟 204 教室

主催 [NPO 法人鹿児島県かごしま有機農業協会](#)

後援 鹿児島大学農学部